



工藤篤子メールマガジン 155 号 2010.04.20

●ア・ヘブンリー・ソング ●Psalm103

お元気でいらっしゃいますか？

4月4日の大阪、北浜チャーチでのイースター・コンサートを皮切りに、主の導きの中で、5回の賛美奉仕をし、福音を伝えることができました。皆さんのお祈りに、心から感謝しています。

今春は、コンサートを通して、素晴らしい2つの賛美曲との出会いがありましたので、是非、皆さんにお分かちしたいと思います。

●ア・ヘブンリー・ソング

ひとつは、中国の讃美作者、シャオミン（小敏）のア・ヘブンリー・ソング（唱一首天上的歌＝天からの歌を一首歌いたい）です。これは、昨年、AKMMのスタッフからDVDを見せてもらって、たましいが揺さぶられるほど感動し、今年のコンサートのプログラムに入れさせていただいたものです。

（シャオミン）

シャオミンは中国の貧しい農村に生まれました。家が貧しかったので、生まれて10日目に、養女としてもらわれて行く予定でした。ところがその日、大洪水が起き、結局、彼女は両親の家にとどまることになりました。彼女は無口で物静かな女の子でした。中学一年の時、鼻腔炎になって、ひどい頭痛とめまいで学校へ行けなくなり、中学を卒業することができませんでした。

ある日、彼女は親戚のおばさんからイエス様の話を聞き、信仰に導かれました。そして、教会の兄弟姉妹の誠実な愛に触れ、自分も神に従う決心をしました。その時、彼女の口から讃美が溢れてきたのです。最初は、小さい子どもたちにだけ自分の歌を歌い、教えていました。しかし、その子たちが歌う歌を聞いた大人たちが大変感動し、楽譜を書ける人たちが、彼女の歌を楽譜に起こすようになりました。彼女の讃美歌は、次第に中国中に広まって行きました。特に、血と涙の迫害を通してきた伝道師たちには、大きな慰め、励ましとなりました。その後、教会だけでなく、テレビで歌われたり、クラシックの作曲家も彼女の曲に感動してオーケストラに編曲するようになりました。

シャオミンの口からあふれてきた讃美歌は、「カナン讃歌」（迦南詩選）と呼ばれるようになり、その数は現在 1000 曲以上に及びます。シャオミンが、自分か作ったのではなく、全て神様が与えてくださった歌と告白しているように、彼女の歌を聞く者、歌う者は、これこそ霊の歌であることを実感し、深い感動を覚えます。中国特有の民族性に溢れたシンプルなメロディーのシャオミンの讃歌は、神への感謝とイエス様の愛に溢れ、聞く者、歌う者に慰めが与えられ、たましいが揺さぶられます。

ア・ヘブンリー・ソング（唱一首天上的歌）

生命的河 喜樂的河 緩緩流進我的心窩。

生命的河 喜樂的河 緩緩流進我的心窩。

我要唱那一首歌，唱一首天上的歌。

頭上的烏雲，心裡的憂傷，全都灑落。

訳：生命の河、喜びの河が、優しく私の心に流れ込む。生

命の河、喜びの河が、優しく私の心に流れ込む。

歌を 1 首歌いたい。天から下ってきた歌を。

頭上の黒雲も、この心の悲しみも、すべて消える。

この詩には、「川」ではなく、「河」という漢字が使われています。揚子江の如く広大な「いのちの河」「喜びの河」が優しく私の心に流れ込んでくるのです。イエス様が与えて下さったいのち、喜びとは、実にそのようなものであり、どのような境遇に置かれようとも、この「河」が私の心に流れ込むなら、どんな悩みも悲しみもこの流れに包まれてしまうことを思うのです。



ところで、この曲を準備するに当たって、伴奏の野田常喜さんが、私が思い描いていた通りのアレンジを作ってくれた時には驚きました。野田さんも、天から降ってきたように、アレンジが湧き上がって来たのだそうです。天から下ってきた「ア・ヘブンリー・ソング」。中国と台湾のコンサートでも、この歌をもって、私たちにいのちを与えるために天から下ってくださったイエス様の愛と恵みを、高らかに讃（うた）わせていただこうと思っています。

（写真：4月16日宝塚ベガホール）

●Psalm 103

もう一曲は、「レインボーミュージックジャパン」の佐々木潤さんの「詩篇 103 篇」です。4月9日に柏グローリーチャペルでコンサートをさせていただいた際、伴奏をしてくださったのがこの佐々木潤さんでした。牧師の子供として生まれ、イエス様の愛に包まれて、純粋な信仰に育まれてきた潤さんは、12年前、ヴォーカリストのお姉さんの静さんとともに賛美ユニット「レインボーミュージック」を結成しました。潤さんはこれまで多くの曲を作ってこられましたが、潤さんの賛美曲の特徴は、詩にぴったり合ったメロディーで、まっすぐに神を見上げた賛美、みことばを歌う賛美、そして、いわゆるワーシップ、賛美歌といったジャンルを超えたところの、純粋な賛美であると、私は思っています。お姉さんの静さんは、教会付属の保育園の先生をしながら、プロ級のお料理、ケーキ、お花、トールペイントなどをこなし、献身的に教会に仕えながら、実に清らかな声で主に賛美を捧げる、謙遜な主の器です。

私は、今春のコンサートのプログラムに、数か月前に偶然 YouTube で聞いて感動した潤さんの曲、「陶器師の御手で」を入れました。そして、柏でのコンサートの音合わせの折、潤さんから、いつか歌ってください、と、彼のもうひとつの名曲、「詩篇 103 篇」をいただいたのです。



わがたましい 主をほめたたえよ
主が良くしてくださったこと
何一つ忘れるな

主は、あなたのすべての咎を赦し
主はあなたのすべての病いやし

あなたのいのちを穴から贖い
恵みとあわれみとの冠をかぶらせ
わがたましい。主をほめたたえよ
主はあなたの一生を良いもので満たされる
あなたの若さはわしのように
新しく変えられる

わがたましい 主をほめたたえよ
主が良くしてくださったこと
何一つ忘れるな



歌ってみると、何とこの詩篇のみことばが、そのまま私の思いとなって天に立ち上るか
の如く、口から流れてくるではありませんか！それで、さっそくこの曲を、2日後の礼拝と、また翌週の大阪 VIP 月例会でも賛美させていただきました。何の気負いも余計な飾りもなく、耳の心地良さを求めるのでもなく、純粋に、そのまま主に捧げることのできる賛美、心が神の愛で熱くな

る賛美、それは、ア・ヘブンリー・ソングのように、主が与えてくださった霊の歌だからなのだと思います。「詩篇 103 篇」、いつかたくさんの聖徒たちとの大合唱・大合奏で賛美させていただける日が来ることを夢見ています。

(写真前ページ: 4 月 11 日、柏グローリーチャペル、礼拝賛美 / 静さん、私、潤さんご夫妻)

●お祈りください

これからの賛美奉仕のために、特に、中国、台湾での奉仕のためにお祈りください。

4 月 24 日(土) 石田耳鼻咽喉科開院 10 周年記念コンサート

4 月 29 日～5 月 3 日 中国、
杭州・崇一堂伝道大会賛美

5 月 7 日～17 日 台湾賛美
コンサートツアー

~~~~~

アイスランドの火山噴火、中国青海省の地震、ポーランド政府機墜落など、世界中で、大きな地変、事故、事件が続いています。

人々が天地万物の創造主である神に目を向け、神に立ち返り、真の救いと神の助け得ることができますようにと切に祈られています。

主の平安が、皆様とともにありますように！  
シャローム！

工藤篤子

